

令和5年度第1回大槌町総合教育会議 議事録

1 日時

令和5年6月28日(水)午後2時～午後4時

2 場所

役場3階 大会議室

3 出席者

平野 公三 町長

松橋 文明 教育長

内金崎 丈志 教育委員

大萱生 都 教育委員

谷藤 怜美 教育委員

東梅 広美 教育委員

社会福祉法人新生会みちのく療育園副施設長 川村みや子様(有識者)

NPO 法人カタリバオンライン事業部長 瀬川知孝様(有識者)

北田 竹美 副町長(オブザーバー)

[事務局]

藤原総務課長、吉田学務課長、岩間主幹、関谷総務班長、

平野大槌型教育推進班長、南スクールソーシャルワーカー

【議事詳細】

1 開会(藤原総務課長)

2 挨拶(平野町長)

※挨拶内容は省略

3 協議

(1)今年度の「けやき共育」推進計画について

- ①大槌町の教育の現状及び課題(吉田学務課長より説明)
- ②「けやき共育」とは(吉田学務課長より説明)
- ③今年度の「けやき共育」の具体的な内容・計画(吉田学務課長より説明)
- ④「けやき共育」の評価・検証(吉田学務課長より説明)
- ⑤SSW の実践と4, 5月の取組状況について(南 SSW より説明)

≪質疑応答≫

①大槌町の教育の現状及び課題について

【大萱生委員】

子どもに合わせた計画であり、先生方が大変な中でも対応しているのが見受けられました。経過が実践されながら地域の方にも関わっていただければ良いと思います。また、もう少し居場所についての認知ができるような資料があれば、地域の皆様も理解を深めることができるのでは。

【内金崎委員】

資料を拝見し、現状をしっかりと把握できており、それに対する課題もしっかり共有が出来ており良い内容だったと思います。教育現場、PTA だけではなく、地域の方々と共に子どもを育てるという環境づくりができるような感じの取組みと感じた。そこをうまく広報していくことが大事なのかと思いました。

【東梅委員】

子ども中心の取組み、個々に合わせた教育に取り組んでいただいていることに感謝しています。ふるさと科での繋がりは地域の中の縦や横の繋がりがありますが、斜めの視点という繋がりもあります。とても良い取組みだと思いますので今後も続けて欲しいです。

【谷藤委員】

ここ数年、大槌の教育を見せていただき、すごく丁寧で、温かく、いいなと思っていました。良い雰囲気の中で不登校児童が増えている背景には新型コロナの影響が大きかったのではと思っています。

今年度から PTA 活動も復活したので、学校とのかかわり方など一から作り直す形で PTA

を巻き込み、取り組んで行けたならいいと感じています。

②「けやき共育」とは

【大萱生委員】

自分の町でこのような取組ができることは素晴らしいこと。一人一人を取り残さないということが本当に大切なことだと思っています。子どもたちにとってとても住みやすい町になればいいなと思います。

【内金崎委員】

ネーミングが素晴らしい。大槌町といえば「けやき共育」と繋がるようなネーミングであり、根から水分を吸って大きくなるというイメージが湧いてきますね。

【東梅委員】

色々な悩みを共有し、話し合うことが早期解決に繋がっていくと思います。この取り組みを皆さんで共有していきたい。

【谷藤委員】

大槌の子どもたちは全員、幸せでなければならないと思っています。地域の方々の力が今後必要となってくると思うので、「けやき共育」について広報に力を入れ周知していくことが必要だと思います。

③今年度の「けやき共育」の具体的な内容・計画

【大萱生委員】

今後、色々な課題が出てくるとは思いますが、まずはこの計画通りでよいと思います。

【内金崎委員】

計画通り進めていただきたい。地域の皆さんに活動内容を周知していくことを期待しています。

【東梅委員】

不登校児童、特性のある子どもの支援などいろいろ課題はありますが、その都度、相談しながら進めていければよいと思います。今は計画どおりでいいです。

【谷藤委員】

新たな取組ですので、PTA、地域の方々を巻き込めるような計画を随時取り入れていけたらよいのではと思います。

【事務局】

保護者の力、PTAの力を借りなければできない事業だと思っています。ペアレントトレーニングや映画の上映など町民の皆さんに広く参加できる場を準備していきたい。現時点ではPTAに対しての事業計画が不十分であるため、学校側と協力し、「けやき共育」を推進していきたいと思っています。

周知方法については、広報おおつちに掲載予定であり、ホームページにも掲載予定。また、2

月にリーフレットを配布予定です。

④「けやき共育」の評価・検証

各委員から特になし

⑤SSW の実践と4, 5月の取組状況

【大萱生委員】

この「けやき共育」が始まる前から大槌町は丁寧に子どもたちに関わっており、(今時点でも)一人一人を取り残してはいないと私は思っています。

声にして伝えることが苦手な子どもにとってタブレットを活用した相談は、有効であり、時代に即した関わり方だなと感じました。子どもたちが伸び伸びと気持ちを表現できるよう、一生懸命取り組んでいただいております。

【内金崎委員】

声を発することができない子どもに対しての情報発信の手段としてタブレット活用はとても良いと思います。相談できる相手がいるということは子どもたちにとって救世主になるのでは。

【東梅委員】

自分の言葉、意思を発することができない子どもが増えていると聞いたことがあります。タブレットでの相談は今の時代に合っていると思います。

【谷藤委員】

保護者の立場として、我が子が不登校になった時、不安だと思います。ペアレントトレーニングなどの保護者のフォローも考えていることに心強く思いました。

【町長】

私からも質問があります。タブレットを活用した相談は学校で行うのか、家庭に持ち帰って行うのか。今時点でタブレットは家庭への持ち帰りは可能となっているのか。また、家庭での通信環境はどうなっているのか。

【事務局回答】

学校での隙間時間や家庭からの相談どちらも想定しています。随時の相談対応は難しいが、平日の朝は必ず相談に係るメンバーで共有し対応を協議しています。

現在、中学生についてはタブレットも持ち帰りは可能ですが、小学生については2学期から実施できるように調整中。家庭でのWiFi環境は7~8割程度。環境が整っていない家庭については支援策を検討中です。

【川村様】

学校と教育委員会が一体となり、そこに教育委員のみなさんも居るという印象を受けました。一緒に取り組んでいるという感じがバンバンと伝わってきて羨ましいです。

例えば学校側で医療に繋がった方がいいと思う子どもがいた場合、教育委員会に連絡するのか、それとも直接医療機関に連絡するのでしょうか。

【事務局】

本町は教育行政と学校現場が非常に密接しており、また健康福祉課との連携も密であるため、支援が必要な子どもたちの情報共有会議を行い、ケースによって繋がりがやすい支援者が連絡をしている。

【教育長】

本町は学校と教育委員会の関係が非常に良く、風通しが良いと思います。良いことも悪いことも隠さず報告があります。

【瀬川様】

教職員の中に「けやき共育」の窓口になる方というか、不登校担当というか、そういった先生方というのは明確に位置づけられているのでしょうか？

【事務局】

特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、指導主事等のチームで対応しています。

【瀬川様】

評価検証についてお聞きしたいです。不登校児童生徒に繋がっている大人がいる、目標100%となっていますが、ここでいう大人とは具体的にどういった人を想定しているのか？目標で非常に重要だと感じている部分。何らかの支援が子どもに繋がっているか、何かしらの学習機会に接続できるか、その学習方法はどういったものを想定しているのでしょうか？

【事務局】

保護者を除く大人と考えています。教育関係者や支援者以外の地域の大人も含まれます。繋がる学習機会についてはICTを活用した取り組みについて瀬川さんにご助言いただきたいところであり、今後、相談させていただきたいと思っています。

(2)指導・助言

【川村様】

子どもたちの中にはいろいろな理由で学校に馴染めない子がいますが、フリースクールだったら行ける子がいます。その子がなぜ学校に行きたくないと思っているのか、子どもの考えや行動に焦点を当てた支援体制が必要だと思います。その子どもの考え方や行動の特性を保護者をはじめ、関わる大人が理解を深めることが重要であり、チームで支援していければ良いと思います。特性のある子どもを身近で支えている母の辛さへのフォロー体制も取り入れながら、子どもたちが生きやすい、過ごしやすい環境を作ってあげられたらいいと思っています。

【瀬川様】

モニタリングとターゲットをきちんと搾り取り、取り組むということが重要と考えています。

不登校になっている児童をリスト化し、支援状況を把握、可視化し、関係者で共有、対応していくことを定期的にする。また、子ども一人一人の状況の違いを確認し、学習支援も含め対応方法を工夫していくことが大切。その中にオンライン学習での支援もあるが、学習支援に至らないまでも、オンラインでの相談支援を通し、誰かと繋がるのがより重要だと思います。オンラインならではの支援の接点の作りやすさ、頻度を高めやすい利点を生かせれば良いと思います。

【副町長】

PDCA サイクルで計画を推進していくとのことですが、事業推進について誰に対して具体的に何をするのかを明確にした方がより良いのではないのでしょうか。また、最終的な評価をするときに分かりにくい点があるため整理したほうが良いと感じました。

【事務局】

今年度は計画の1年目であり、就学前の子どもを含めた支援が必要な子どもを中心に展開していき、次年度以降は全ての子どもたちを対象にと考えています。事業内容について解りやすく表現できるよう整理していきます。

【町長】

取組の現状を把握するためにも行政側が教育現場に出向くことも必要ではないかと思っています。様々な支援の現場を実際に見て研修する機会に学校の先生方だけではなく関係者も一緒に行き情報共有しながら良い環境づくりをしていければと思いますので、今後とも、ご指導のほどよろしく申し上げます。

5 その他

特になし

6 閉会(藤原総務課長)